

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年8月29日

【評価実施概要】

事業所番号	4072400320
法人名	社会福祉法人 明筑会
事業所名	グループホーム ひかり
所在地 (電話番号)	福岡県筑後市尾島510番地1 (電話) 0942-53-0040
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成21年7月14日

【情報提供票より】(平成21年6月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 10月 20日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.3人

(2) 建物概要

建物形態	<input checked="" type="radio"/> 併設 <input type="radio"/> 単独	<input checked="" type="radio"/> 新築 <input type="radio"/> 改築
建物構造	鉄骨造平屋 造り	
	1階建ての	1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000又は31,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	<input checked="" type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	900 円		

(4) 利用者の概要(平成21年6月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 91.8 歳	最低	84 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新船小屋病院、山崎医院、なかお歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は田園広がる住宅街の中にあり、併設する軽費老人ホームとの敷地内には、昔なつかしいバンコが配置されており、会話や休憩をしながら緑豊かな木々や四季折々の花を楽しむことができる自然に恵まれた静かな環境である。平均年齢91.8歳であり、思いを表出できない利用者の心の声に寄り添い、生まれ故郷の学校にお連れするなど個別ケアを実践されている。近隣とは地域の一人として交流を深めており、住民参加の防火訓練や様々な災害を想定しての訓練など安全対策にも熱心に取り組んでいる。利用者の心の声に寄り添い、その人らしく暮らせるホームであり、また地域で支えあう拠点としてこれからますます期待されるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価での改善項目については全職員で話し合い、権利擁護の研修参加や個人情報取り扱い方法等、具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者、管理者、職員は自己評価及び外部評価の意義を理解しており、自己評価を全職員で話し合っひとつにまとめている。外部評価を日頃のケアの振り返りの機会として活かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	市職員、地域包括支援センター職員、家族代表、区長、住民2名が参加し2ヶ月に1回開催している。利用者の状況や活動状況を報告し、意見交換や助言を受けている。市職員との連携も図られており、地域福祉への行政のバックアップもあって学生を交えての福祉フェアやグループホーム部会での交流など活発な活動を通じて、サービス向上につなげている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	玄関に意見箱を設置しており、体調の変化などの際はその都度電話報告を行っている。ホーム便りを3ヶ月に1回発行し、担当者が直筆で利用者一人ひとりの近況を伝えるなど細かい配慮を行っており、苦情や不満は今のところない。家族からの率直な意見を引き出せるよう家族だけで意見を出せる場や機会作りを行い、よりよいサービスの向上につなげられることが望まれる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	区長から地域行事の招待を受け、利用者と一緒に参加したりしている。また、気軽に近所の人が野菜を届けてくれたり、お茶を飲むなど地域の一人としての取り組みが実践されている。併設の軽費老人ホームと合同で近隣住民とのバーベキューやお花や書道クラブへの参加、またボランティアの受け入れなど積極的に地域活動に参加している。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で支えあう拠点作りとして開設されたホームであり、法人理念に加え、「地域の中でその人らしく、いきいき、たのしく、ゆつたりと暮らします。おひとりおひとりの心の声に寄り添っていきます。」とホーム理念を事業所独自に作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関の目に付きやすい場所に掲示しており、朝礼時には全員で唱和している。職員は常に理念を意識しながら、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、回覧板を利用して地域の情報を得たり、ホームの情報を発信している。区長から地域行事などの招待を受け、利用者と一緒に参加している。近所の方が気軽に訪問され、野菜を届けたり一緒にお茶を飲まれるなど、地域の人々との交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、管理者が意義や目的を会議で伝え、全職員で分担して作成したものを再度会議で一つにまとめた。昨年の外部評価の結果は会議で報告し、改善項目については話し合いの上で改善されるなど、評価を活かした取り組みが実践されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員、地域包括支援センター職員、家族代表、区長、地域住民2名が参加し、2ヶ月に1回開催している。利用者の状況やヒヤリ・ハット、退居者の状況、苦情処理、行事案内を報告しており、毎回テーマを決め事例報告等行っている。そこでの意見や助言はサービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域密着サービスとなってからより市町村担当者と連携が取りやすくなり、福祉フェアなど大学を巻き込んだ地域福祉に行政も協力するなど、意見や相談がしやすい関係作りができています。介護保険に関する相談も電話で助言指導を仰いでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人内合同の内部研修や地域包括支援センター職員による出前講座を開催し、研修に参加できなかった職員には伝達講習を行うなど、制度への理解を深めている。また、パンフレット等の資料をホーム内に準備している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りを3ヶ月に1回発行し、行事事内だけでなく、担当者が直筆で利用者一人ひとりの近況を伝えるなど、心のこもった配慮がされている。利用者に体調変化などが生じた時はその都度、電話で報告を行っており、受診の前後も必ず連絡を取っている。職員異動や金銭管理については、家族の面会時に報告している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談窓口や苦情対応機関を明記し、入居時に説明を行っている。玄関に意見箱を設置しているが、不満や意見は今のところない。家族会代表者に家族会設置の提案をホーム側から行うなど、積極的に意見等を表せる機会作りを努めている。	○	市職員へ苦情受付がないか確認するなど、ホーム側として努めているが、より家族等の率直な意見を引き出せるよう家族だけで意見を出せる場や機会作りを提供し、よりよいサービスの向上につなげられることを期待したい。
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職時は家族や地域の方にも報告し、利用者には茶話会を開いて報告している。ダメージを最小限にするために引継ぎ期間を設け、担当者の振り分けを見直すなど行っている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用は法人で行われ、年齢や性別による排除は行われていない。年2回自己申告書でやりたいことや資格取得の希望など職員の意向を把握し、年1回リフレッシュ休暇を連続して1週間取れるなど、働きやすい職場作りを行っている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日々の業務の中で利用者の人権を損なうような言動がないか注意を払い、内部研修等で人権教育、啓発活動に取り組んでいる。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修が月1回あり、外部研修も交代で参加しており、伝達講習で職員全員が学べる機会を確保している。新人職員には先輩職員がつき、段階に応じた教育を行っている。また、管理者は指導の場所や相談しやすい雰囲気作りを配慮した対応をとっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム部会の定例会や研修会に参加している。施設長以外の職員だけの交流会が開かれ意見交換するなど、部会は活発に活動しており、他のグループホームに利用者と共に見学に行ったり、空き情報を提供するなど、共に連携を取りながらサービス向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者、家族に安心して利用して頂けるよう見学してもらっている。その際、短時間ホームの利用者と一緒に過ごしてもらい、利用者の反応をみて入居の意思を確認している。体験利用も設けており、入居後も自宅までドライブに連れて行くなど、徐々に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の盛り付け方や食器の拭き方など人生経験豊かな利用者に教えられる場面があり、利用者からねぎらいの言葉をかけてもらったりして、共に支えあう関係が築かれている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりととの会話を大切にし生活の中での様子や表情、日々の言動から利用者の意向を汲み取っている。家族の訪問時に会話の中から情報収集をするよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を活用して担当職員が家族の意向を聞きとったり、日々の暮らしの様子や他の職員からの情報から本人の意向を読み取ったりして、介護計画の原案を作っている。その後、全職員で話し合い、本人の意向が反映された介護計画を作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	2か月に1回評価を行い、6か月に1度関係者と見直しを行っている。心身の状態変化の兆しに予防的に対応できるよう、全職員で気づき等の情報交換を行い、評価と現状把握をしている。状態変化が生じた場合は、医療関係者などから情報提供を受け、本人、家族、職員等と話し合い、現状に即した新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の軽費老人ホームで地域住民も参加可能な、指導者を招いての生け花、書道、うたクラブ活動に継続して参加できるよう支援している。入院時の見舞いや退院時の出迎え、家族の宿泊受け入れや食事の提供など、本人や家族のその時々々の要望に応じて臨機応変かつ柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医の継続利用を優先している。家族による受診対応を基本としているが、困難な場合は職員が受診支援を行い、家族、全職員共に受診結果に関する情報を共有している。2週間に1回の往診もあり、利用者に適切な医療が受けられるように支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族、医療関係者、全職員と重度化や終末期に向けた方針を共有し、これまでに数名の看取りを支援している。揺れ動く家族の気持ちを記録に残し、その都度、家族などの意思を確認しながら最終決断を尊重し支援しているが、早い段階での取り組みではない。	○	高齢の利用者も多いので対応についてできるだけ早い段階から本人、家族、かかりつけ医等ケア関係者と話し合いの機会を作り、意思確認書の作成など更なる支援への取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	広報誌で使われている個人を断定できる写真などは、掲載について家族や本人の承認を得ている。記録等の個人情報は事務所で管理し保管している。利用者に尊敬の念をもって接することの大切さを共有し、部屋に入る際の挨拶や日ごろの言葉づかいなどに気をつけ、プライバシーや自尊心を損ねない対応の徹底が図られている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間を中心におおまかな一日の流れはあるが、これまでの生活リズムで過ごせるよう、起床から就寝にいたるまで、その日の気分や体調に配慮しながら、本人が心地よいと思える暮らし方を支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	訪問時は、厨房の害虫駆除のため外注した弁当であったが、食器に盛りなおし、箸や湯飲み、お茶碗など馴染みのあるものを使用し、食が進むような工夫がされていた。普段の昼食は併設の軽費老人ホームでつくられた食事を購入している。料理を利用者と一緒に盛り付け、朝と夕食はホームで作る食材の買い物も利用者と一緒に出かけている。年1回栄養士より献立のアドバイスを受けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望や状態を考慮し、午前・午後にゆっくりと入浴していただいている。現在は入浴を拒む利用者はほとんどいない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ドライブ、ショッピング、3か月に一度の外出などの気晴らしや楽しみごとの支援を行っている。また食事の盛り付けや後片付け、野菜作り、草取り、洗濯物たたみ、リビングや居室の清掃など一人ひとりの力を活かした役割づくりやその機会をつくっている。お願いできそうなことは頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	スーパーへ食材や好みの物を買に行ったり、希望者と一緒に隣にある軽費老人ホームのお地蔵様をお参りに行ったり、クラブ活動参加のため外出したりしている。天候のよい日などは出かけ、季節感を肌で感じてもらっている。今後、利用者の希望の場所へマンツーマンで出かけられるよう個別の外出計画を予定している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は施錠しているが、日中は玄関、窓などすべての出入口を開放している。職員配置も全利用者を見守りできるよう工夫されている。玄関には心地よい音がする鈴が設置されており、来訪者を含め出入りがわかるようにしている。帰宅願望がみられる時は落ち着かれるまで一緒に行動している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	3か月に1回火事(日中・夜間想定)、地震など様々な災害に対する避難訓練を実施しており、併設の軽費老人ホームや地域の消防団なども参加している。非常食などの災害に備えた備品は隣の建物である軽費老人ホームに備蓄している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量が把握できるようチェック表に記入し、水分量は大まかに確認している。冷蔵庫には利用者の嗜好に合わせた飲み物を用意しており、居室には利用者の希望に応じてポットを設置している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには行事の写真、利用者が作られた貼り絵や書道、折り紙などの作品が掲示されている。窓は開放されており、風の通りもよく、各所にはくつろげるソファを設置している。また、花や観葉植物など季節感が感じられるよう工夫している。食事用の椅子には動かしやすい工夫がされており、生活しやすい配慮がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は写真や趣味の作品など一人ひとり個性のある居室作りとなっており、馴染みのある家具や思いのこもった物品を持ち込み、本人が安心して居心地よく過ごせる居室となっている。</p>		